

## 令和6年度第1回 千葉市社会教育委員会議事録

1 日 時 令和6年5月27日(火) 午後2時から午後4時まで

2 場 所 千葉市役所2階 XL203会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

伊藤委員、岩崎委員、小川委員、上條委員、小早川委員、坂本委員、高山委員、竹内委員、丹間委員、長岡委員

#### (2) 事務局

齋木生涯学習部長、志保澤生涯学習振興課長、君塚文化財課長、岩井生涯学習振興課長補佐、森本文化財課長補佐、山本生涯学習科学教育班主任

### 4 報 告

(1) 加曾利貝塚 E 地点・B 地点発掘100周年記念事業について

### 5 議 題

(1) 議長選出について

(2) 令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について

(3) 公民館の機能強化について

### 6 議事概要

#### (1) 報 告

加曾利貝塚 E 地点・B 地点発掘100周年記念事業について、事務局より報告を行い、意見交換が行われた。

#### (2) 議 題

##### ① 議長選出

委員からの推薦を受け、伊藤委員に決定した。

##### ② 令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について

事務局より資料に基づき説明の後、質疑応答・意見交換が行われ、原案どおり可決した。

##### ③ 公民館の機能強化について

事務局より資料に基づき説明の後、質疑応答・意見交換が行われた。

## 7 会議経過

議事に先立ち、生涯学習部長挨拶、事務局から資料の確認、会議の公開及び会議録の承認方法、会議の成立、職員の紹介を行った

また、報告までは生涯学習振興課課長補佐が、議案1議長選出は高山副議長が会議の進行を務めた。

### 報告

加曽利貝塚 E 地点・B 地点発掘100周年記念事業について

#### ○ (岩井生涯学習振興課課長補佐)

それでは、報告に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

#### ○ (君塚文化財課長)

加曽利貝塚は、縄文時代を代表する遺跡として、遺跡の国宝にあたる特別史跡に指定されています。大正13(1924)年に行われた加曽利貝塚E地点、B地点等の発掘調査は、のちの縄文土器研究の進展に大きく貢献した調査として知られています。

今年度は、この調査から100周年を迎えることを契機に、さらに加曽利貝塚の価値と魅力を多くの市民に知っていただくため、参考資料の「2実施事業」に示した各種記念事業を実施してまいります。

また、100周年を盛り上げるため、「3 100周年記念ロゴについて」にお示したロゴを作成しました。今年度実施する加曽利貝塚関連事業の広報に活用してまいります。

#### ○ (長岡委員)

千葉市には、世界一の加曽利貝塚があるばかりでなく、多くの縄文遺跡がある。相当豊かな文化があったと考えられる。食文化体験などを通して素晴らしい文化だったことを伝え、大切にしたい。昔は、加曽利貝塚の近くまで海があったのか、その頃の地形について知りたい。

### 議 題

#### (1) 議長選出について

#### ○ (高山副議長)

副議長の高山です。議長が選任されるまで議長を務めます。よろしく願いいたします。

「議題1 議長の選出について」でございますが、千葉市社会教育委員設置条例第5条第2項の規定により「議長及び副議長は委員の互選により定める」となっております。議長の選出につきまして、自薦他薦などございますでしょうか。

#### ○ (丹間委員)

教育委員会では、学校教育部長も勤められ、長らく学校教育や教育行政に携わり幅広い知見をお持ちの伊藤委員を議長に推薦いたします。

#### ○ (高山副議長)

ただいま丹間委員より「伊藤委員を議長に」との推薦がございましたが、委員の皆さまいかがでしょうか。

(異議なしの声)

それでは、伊藤委員を議長といたします。

## 議題 2 「令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について」

### ○ (伊藤議長)

それでは、議題2の「令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について」を審議します。事務局より説明をお願いします。

### ○ (志保澤生涯学習振興課長)

資料1について説明

### ○ (長岡委員)

保護者から「PTAには入らなくてもよい」といった意見が出るのは、PTA活動が活発ではないからではないのか？PTAの活動が重要であるという立場から活性化してほしい。

### ○ (丹間委員)

PTAの活動について、コロナ禍が明けた令和5年度は、その前に比べてどのくらい回復しているのか？

### ○ (上條委員)

PTAは、子ども達のために様々な事業を実施している団体だが、時代にあわせて変えていく必要がある。現状を知りたい。

### ○ (伊藤議長)

質問としましては、PTAの組織や活動の現状や、組織に関わる人の負担についてなどの質問が出されました。まず事務局よりお答えいただき、その後、市P連の役員も努められている小早川委員から補足をお願いします。

### ○ (志保澤生涯学習振興課長)

加入率は、減少してきています。この理由としましては現在進んでいる学校の統廃合も影響していると思われます。学校単位で(市P連を)退会しているところではありますが、保護者会などの組織として学校を支援しておるとのことで、今後これが広がっていくかということにつきましては把握していないところであります。

活動につきましては、まだ完全にコロナ禍の前のように戻っていないとのことです。そんな中保護者の方々は一所懸命学校を支援していこうとしており、運動会やバザーなどのイベントなど今後変化していくのではと思います。

(PTAは)教員と父母が共同して児童・生徒を守っていくことを目的としているところですが、

市P連を抜けたところにおいても活動は継続されています。中学校区で複数の小学校から集まってきた時には、「市P連加入の有無で横の連携が切れてしまわないか」といったことを市P連の役員の方は懸念されていました。

○（小川委員）（ユネスコへの意見挿入）

市P連とユネスコ協会は、ともに豊かな活動をしている。それに対して、千葉市の補助は、市P連に対しては活動予算の半分くらいであり、ユネスコ協会には極端に少ない。それぞれの活動に対しての千葉市の支援の役割は異なるということだろう。ユネスコ協会に対していつまで補助を続けるのか、何を期待しているのかを明確にしたい。

○（齋木生涯学習部長）

それぞれの団体では、団体離れが起きている現状のなか、活動を工夫していると捉えています。しかし、補助金支給のあり方が本当にこれでよいのかについては議論のあるところだと考えています。

市P連については、活動についての広報活動を充実させており、大切なことであるため、市としてはそのことを鑑み補助金を支給しているところです。また、ユネスコ協会は繰越金が多くなっているため、ソフト面での支援の在り方の工夫が必要かと考えます。

○（小早川委員）

PTAへの加入率につきましては、市P連発足時の7割台だったことから比べ、「任意加入」を説明するようになってから加入率は下がっています。学校設立時から「保護者会」の名称で活動をしているところもあります。

活動につきましては、コロナ禍を経て以前より縮小するのか、やり方を変えて実施するのかを検討しながら活動をしているところです。PTA加入者の生活スタイルが多様化している中、活動の在り方は見直していく必要があると考えています。

また、PTA役員のなり手がなかなかおらず決めるのが難しい実態の中、コロナ禍の際に導入したオンラインの活用などの工夫もされています。

男女比につきましては、把握しかねるところではありますが、家族で参加してくれることもあり、個人的には男性の参加は増えていると考えます。

○（伊藤議長）

事務局及び小早川委員から説明がありました。ご質問・ご意見等はありませんでしょうか。

○（丹間委員）

PTAの活動については、全国的に関心が高まっており、団体離れがいわれる中、PTAの理念をしっかりと伝え、団体に加入するメリットを呼びかける必要があると考えています。「PTAでなくても保護者会があればよいのではないか」という声もありますが、戦後の反省の中でPTAが社会教育団体として生まれたということを再認識して、しっかりと伝えてほしいと考えます。親御さん自身、教師自身にも、多くの学びがありメリットがあることをしっかりと伝えたいです。

○（伊藤議長）

長岡・上條委員からは、PTAの活動の大切さを評価しながら活動を見直していく必要があるとのご意見がありました。また、丹間委員からは、PTA発足の歴史とその理念を正しく伝えたいとの意見をいただきました。ありがとうございました。

以上を受けまして、議題2は、提案どおり可決でよろしいでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございました。以上で、議題2の「令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について」の審議を終了いたします。

○（伊藤議長）

次に、議題3の「公民館の機能強化について」について審議します。本日は、委員の皆様から様々な視点でのご意見をいただきたいということですので、よろしくお願いします。

事務局より説明をお願いします。

○（志保澤生涯学習振興課長）

資料2について説明

○（丹間委員）

千葉市の場合、中学校区ごとに公民館があり、千葉市全体を網羅している大きなメリットがあると考えていたが、「行きづらい」という声がある現実に驚きました。また、利用者の多くが高齢者であることで、インターネットの活用は難しいということがわかりました。生涯学習施設であることから誰でもが学べるという理念が大切であり、社会教育施設としての重要性を前提に考えていきたいと思えます。

また、「つなぐ場、まなぶ場、むすぶ場」の三つの柱を結び、それが循環することが大切です。そのために柱と柱の間をどうするのかを検討してほしいと思えます。そのためには、まずは集うことが大切であり、オンライン一辺倒にならないようにして留意して欲しいです。オンラインと実際の講座を適切に組み合わせるなど、「千葉市ならではの」取り組めることがあるのではと思えます。

○（坂本委員）

市政だよりには、少ししか情報がでていない。一方で、公民館に行けば公民館だよりはあるが、公民館に行かなければもらえない。そこを工夫すべきだと考えます。

○（伊藤議長）

暑さをしのぐという防災対策という視点も大切だが、社会教育の場であることを忘れずに考えたいです。

○（小川委員）

こちらから一方的に情報を伝えようとしてもうまくいかない。双方向の企画が重要であると考えています。

今後は外国人に対する医療通訳の問題もあるので、保健所とタイアップして健康診断や受診のことを情報伝達することも考えて欲しいです。また、税や社会保障も同じであり、地震に対する知識も不足しています。外国籍の人たちのコミュニティーと一緒に取り組むことが必要だと考えます。

○（齋木生涯学習部長）

まずは公民館と区役所が身近で必要なものと思ってもらうことが重要だと考えています。その上で取り組むべきことについてご助言いただきたい。

○（伊藤議長）

外国とつながる住民の方の多国籍、多言語化への対応には取り組んでいますか。

○（齋木生涯学習部長）

取り組んでいる公民館はあります。

○（竹内委員）

公民館利用者の中には、予算減・利用者減のなかで公民館がなくなるのではと感じている方もいます。

防災拠点の考え方は重要であり、市民の不安を払拭するためにも自治会とタイアップして防災拠点としてのメリットを見せていくことも必要だと考えています。

公民館を自習室として活用しているところが増えてきており、たとえば幕張公民館は中学生や高校生がロビーで勉強しています。自発的に自習室を作るなどの取り組みはよいことだと思います。

○（岩崎委員）

私のエリア（美浜区）では地区連と連携して、避難所は運営されています。

外国人の親に対して日本の文化を教えてあげるような取り組みがあるとよいのではないのでしょうか。外国とつながる保護者へのフォローが大切だと考えています。

○（高山委員）

今日紹介された事例のほかに外国人に対する取り組みがあるはずで、次の公民館のモデル事業に取り入れてほしいと考えます。

○（長岡委員）

どのように関心を持たせるかを工夫したいです。地域のことを知ってもらうのか、日本の文化を知ってもらうかなど、目的と方法を工夫したい。地域のお祭りや防災などで関心を高め、「一

緒にやりましょう」と呼びかけていきたいです。日本の労働力人口が下がっている中で、今後も外国人は増えるでしょう。

公民館は、年末年始を除いて開館していることはすごいこと、また、地域の社会福祉協議会地区部会のような団体に部屋（スペース）を貸していることもすごいことです。児童センターは、現在、千葉市にはない。公民館は、子どもには使いづらい。もっと子どもが自由に使える施設としたいと願っています。

○（伊藤議長）

今回の協議で出た「子どもの居場所づくり」、「外国とつながる方の支援の拠点」、「防災の拠点」などを考えると、大学とか社協などの団体等、公民館の外にあるものを巻き込んでいく必要がありますね。

○（齋木生涯学習部長）

皆様のご意見を伺い、市民団体を巻き込んでいかないと単独では難しいことを再認識できました。また、子どもから大人まで使える場所にしていくことが大切だという意見もよくわかります。その実現のためにも、老朽化している施設をどうするかという課題についても喫緊の課題として考えていく必要があります。

○（上條委員）

地域拠点としての役割を明らかにして、子どもを巻き込む事業を増やしていきたいですね。また、世代間交流が大切です。公民館と公民館図書室・図書館との連携も工夫して行ってもらいたいと考えています。

○（伊藤議長）

「つどい～まなび～つなぐ」の地域での循環が大切でしょう。

○（竹内委員）

公民館図書室は変わってきている。フリーに来てフリーに帰れるようなコーナーが大切になるのではないのでしょうか。事務局に頑張ってもらいたいです。

○（丹間委員）

公民館は、いろいろな役割と可能性を持った施設です。「公民館でなければいけないのか」、「他の施設でもできるものはないのか」などを踏まえて、意識の変容と行動の変容をうながす学びの場として公民館の運営を模索し、実現してもらいたいと考えています。

○（伊藤議長）

時間の都合もあり、以上で、本日の議題3である「公民館の機能強化について」を終了します。

この他、本日の議事・報告以外に委員の皆様から何かございますでしょうか。

（特に発言無し）

○（伊藤議長）

それでは、本日の会議はこれで終了します。

千葉市社会教育委員会 議長

伊藤 裕志

問い合わせ先 千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課

電 話 043-245-5954

ファックス 043-245-5992

電子メール shogaigakushu.EDL@city.chiba.lg.jp